

橋名碑
きょうめいひ

雑喉場橋

ざごばし

(所在地) 野田二丁目一三 福島野田郵便局前



雑喉場橋は西区にあった川にかけられていたが、その親柱のひとつが、雑喉場ゆかりの会社によって、中央

卸売市場近くに保存されている。

雑喉場魚市場跡

碑が江之子島の親

柱碑の近くにある。



西区江之子島一丁目の碑と親柱



『大阪市街全図』(1900)より

【碑文】 雑喉場橋之碑

かつてこのあたりに百間堀川がながれていた 川幅は三十メートル程で江戸堀川 京町堀川 阿波堀川を集めて木津川に合流していた 百間堀川の東岸鷺島は 江戸時代より雑喉場の魚市と呼ばれ天満の青物市 堂島の米市とならぶ大坂三大市場の一つとして 大坂人の台所をまかなっていた その当時の雑喉場はこのほか活況を呈し大坂商人の商人魂を培っていたしかし三百年の歴史を持つ雑喉場も昭和六年の中央卸売市場の開場によりその歴史を閉じた 江戸後期 雑喉場から百間堀川をこえて 対岸の江ノ子島に架かる橋は 上之橋 下之橋の二橋があった 明治に移り 七年に江ノ子島に大阪府庁舎が建設され その翌年 大阪で五番目の鉄橋として下之橋とほぼ同じ位置に雑喉場橋が架けられた その後二度改築されたが昭和三十九年に百間堀川の埋立てとともに 雑喉場橋も姿を消した

雑喉場橋はこの碑の東側にあたり この親柱は大正十一年改築時のもので その上の照明灯は当時の姿を復元したものである

雑喉場橋 諸元

橋長 三十五メートル

幅員 十六メートル